

新型コロナウイルス感染症対策について ー学校は、養護教諭は何をすべきかー

私達は、かつて経験したことのない新型感染症に直面しています。

「新型コロナウイルス感染症」の拡大は、集団感染から、感染爆発、都市封鎖、外出自粛、全国の学校休校等など、我が国のみならず世界各国の危機ともいわれています。まさに「健康の危機管理」は、今、取り組むべき喫緊の課題です。この状況下、学校は何をすべきか、とりわけ、児童生徒の「心身の健康の保持増進」に関わる養護教諭の取り組むべき重要かつ緊急課題と考えます。

新型コロナウイルス感染症の状況は、日々刻々と変化し、目に見えないウイルスという対象との戦いに子供、保護者、教員の不安感が募る日々です。本日の安倍首相のコメントは、感染爆発等が起こると制御不能となることなどの警告であったように思います。新学期を迎えるにあたって、会員とりわけ養護教諭へのエールを込めて対応の基本等を述べたいと思います。

【対応の基本】

養護教諭の職務の原点を今あらためて認識・確認

養護教諭の職務は、児童生徒の養護をつかさどる教育職員であり、子供たちの心身の健康を保持増進する役割を担う。この観点から「新型コロナウイルス感染症」対策は以下の項目が考えられます。ア、養護教諭の専門性を活かす イ、教育的視点を活かす ウ、コーディネーター的役割を活かす

【具体的役割】

1. 専門性を活かす

①新型コロナウイルス感染症を知る・可能な限りエビデンスを基に

現時点ではこのウイルスの正体は明確ではないが、様々な専門家の知見をもとに養護教諭の視点から専門性を活かした学校での対応にあたること。

②感染症対策の基本原則を活かした管理と教育の一体的対応

コロナウイルスは感染症であり対応原則は、ア感染源対策（健康観察等による対象者への欠席等の措置）イ感染経路対策（手洗い、咳エチケット）ウ抵抗力をつける（免疫力を高める）です。

2. 管理と教育の一体的な取り組み

①メディアなどでは上記の中で、アの休校など感染源対策やイの手洗い等感染経路対策の管理的側面が強調されているように思います。それと共に、ウの抵抗力をつけるという側面が健康の保持増進を担う養護教諭が教育指導を啓発する重要な役割です。すなわち、睡眠、食事、適度な運動等の基本的な生活習慣の確立を管理と共に啓発すべきと思います。

②今こそ、若者（児童生徒）の意識啓発 ー学校の教育の真価が問われるー

「私達は若いから大丈夫・・・」「どうして家にだけいなければならないの？」症状も出ていない、熱も咳の症状もないエネルギーあふれる子供たちが普通に思うことです。ある調査によると、休業中に思ったことは「友人にあいたい、外で遊びたい、コロナが不安だ、いつまでこの生活が続くのか、早く日常の生活に戻りたい」等の声が多いという報告があります。

子供たちはコロナウイルス感染しても重症化しないと思っています。しかし、「2週間の潜伏期間に感染を拡大させることとなる」「家族や高齢者にウイルスを運ぶ人となること」「君たちの行動が家族はもとより国の重大な危機（感染爆発・地域の封鎖）を救うことになる」等についての強いメッセージが必要です。児童生徒の健康を担う養護教諭がその専門性と教育性を発揮して対処する責務であると言っても過言でないと思います。

3. 心と体への両面への対応・学校での「健康相談」の実施

非日常的な生活を強いられている子供たちは、メディアからの情報、家族の様子から、身体のみならずストレスを受け、心の負担を抱えていると思います。この状況は東日本大震災や熊本地震、台風、豪雨災害と同様な心のケアが必要です。

文科省では心のケアについて以下の通知を出しています。

※「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業中の児童生徒の外出について（3月4日時点）」

https://www.mext.go.jp/content/20200304-mxt_kouhou02-000004520_3.pdf

【心のケア等に関すること】

問16 学校再開後、心のケアについてはどのように対応すればよいか。

- 学校再開後についても、児童生徒の中には、自分や家族も感染するのではないかと不安や恐れを抱くなど、依然として心理的なストレスを抱えている児童生徒も存在すると考えられるところである。
- ついては、学級担任や養護教諭等を中心としたきめ細かな健康観察等から、児童生徒の状況を的確に把握し、健康相談等の実施やスクールカウンセラー等による支援を行うなどして、心の健康問題に適切に対応いただくようお願いいたします。
- なお、引き続き臨時休業を行う学校については、令和2年3月4日付け事務連絡※において示しているとおり、自宅で過ごす児童生徒及び保護者との連絡を密にし、児童生徒のストレス等の課題に関し、相談窓口（24時間子供SOSダイヤル等）を適宜周知するとともに、必要に応じて養護教諭やスクールカウンセラー等による支援を行っていただくようお願いいたします。

さらに、以下の資料が参考になると思います。新型コロナウイルス 流行時のこころのケア緊急時のメンタルヘルスと心理社会的サポート（MHPSS）に関する機関間常設委員会（IASC）リファレンス・グループ Version 1.5 2020年3月 子どもたちのストレス対処を支援するためのメッセージ その内容の一部を紹介します。（詳細は上記URL）

・ ・ ・ ・ ・ 何が起こったのか、これからどんなことが起こり得るかについて、安心できるような、誠実かつ年齢に応じた方法で、その情報を提供して下さい。自宅で隔離・検疫の期間中は、子ども向けの活動を行うことで、養育者を支援しましょう。例えば、ウイルスについての説明も行うべきですが、子どもが学校に行っていない時でも、それらを取り組めるように工夫しましょう。例えば、こんな活動ができます。リズムをつけた手洗い歌を唄うゲーム ウイルスが体の中を探索しているお話をする、家の掃除や消毒を楽しいゲームにってしまう ・ ・ ・ ・ ・ 後略 ・ ・ ・

4. 養護教諭がコーディネーター的役割を果たすー

学校における新型コロナウイルス感染症対策は、国（文部科学省）の指針や通知などに基づき、すべての教職員がチームとなって、対応にあたる必要があります。養護教諭は先の対応基本を念頭に置きつつ、管理職と密接に連携して、各担当者の役割が十分に果たせるように調整するコーディネーター的役割を果たす必要があります。

文科省の資料では、実践例として以下の例を挙げています。

学校の臨時休業の実施状況、取組事例等について【令和2年3月19日時点】

各地域における取組事例【小学校・中学校・高等学校の取組】

養護教諭が学校と学童のコーディネーター役に毎日養護教諭が学童の子供たちの健康観察とスタッフとの情報交換を実施。そこで得た情報を管理職や担任と共有して学校としても対応しており、養護教諭が学童と学校のコーディネーター役を果たしている。学童の子供たちに感染症対策として手洗い指導等を行うほか、心の健康についても気を配っている。

5. Web会議の活用、近隣の養護教諭仲間が手をつないで情報を共有し実践に活かす

外出の自粛、研修の中止など、先の見えない現状です。一人配置の養護教諭はこの危機に「誰と」「何を」「どのように・・・」対応するのか、不安や迷うこともあると思います。近隣の養護教諭が地域にあった状況や情報の共有によって相互に助け合ってほしいと思います。また、対面での会議が無理な場合は、IT時代の今に相応した「Web会議」の実施も効果あると言われてしています。

6. 教師自身の心身の健康を支援するー先生方自身の心と体の健康をたいせつに！！ー

新型コロナウイルスの感染症は、我が国はもとより、世界各国に広がり、今の状況がいつまで続くのか、収束（終息）の見通しは見えない不安、クラスター（集団感染）、パンデミック、感染爆発（オーバーシュート）都市封鎖（ロックダウン）等聞き慣れない用語の連発に緊張されておられると思います。さらに、外出自粛、イベント中止、オリンピック・パラリンピックの延期等など日々刻々と新しい情報に緊張感が募ります。

子供たちの健康を守り育てなければ、今こそ養護教諭が・・・等の日々の実践の継続かと思えます。また、教職員は、子供たちの心身の健康保持はもとより、自身が感染源とならないように毎日精一杯の勤務をされておられることと思えます。知らず知らずに「コロナうつ」の状態になってしまうことも考えられます。養護教諭は担任教諭等が抱えている心や体の不安について専門家の先生に相談するなどのサポートも必要になると思えます。

しかし、最も大切なのは最前線で対応する養護教諭の心と体の健康です。お願いします。時々肩の力を抜いてください。日本健康相談活動学会として何かのお役に立てれば、理事一同全力で応援したいと思えます。一日も早く日常がとり戻ることを祈っています。

【参考】

その他：マスク不足対策として児童生徒会活動や親子でマスク作りのアイデアのひとつと思えます。文科省通知ではマスク作りについて以下の情報が提供されています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00460.html さらに、各学校におい

ても、養護教諭や家庭科、技術・家庭科担当教師等を中心に手作りマスクを作成する学校教育活動を行うことなども考えられます。